

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	REUBEN JOSEPH BABATUNDE LEWIS
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation Cooperative Institutionalization of Conflict Prevention in Regional Subsystem: A Case Study of West Africa			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科准教授	山根達郎	印 Seal
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科 教授	片柳真理	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科 教授	川野徳幸	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科准教授	友次晋介	
審査委員 Committee	龍谷大学法学部 教授	落合雄彦	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>紛争を予防する国際的な仕組みとしては、国家間による協調こそが有意あるものと考えられがちである。しかし、本論文は、このようなリアリズム的な定説を乗り越え、リベラリズム的な発想で構築される制度化の動きに着目し、しかもそのメカニズムこそが持続可能な紛争予防の構築に寄与すると論じる新規性を打ち出した。西アフリカ諸国は、国家の統治機能が極めて低い状況に長らく置かれていた。こうした中で近年に入り、非国家主体としての地域機構と市民社会組織とが協調し、これらの中で紛争予防メカニズムの構築に乗り出してきた。国家の営みに先行して、これらの非国家主体が紡ぎだす紛争予防行動の総体について、本論文は、「協調的制度化」の概念枠組みによって、その特色を描き出した力作である。</p> <p>本論文は、8つの章で構成された。第4章までに多様な主体間の協働を水平的・垂直的に捉える分析枠組みを構築し、第5章からは事例の分析を実施した。地域機構の紛争予防行動がやがて市民社会組織を巻き込み、そうした動きが一部の西アフリカ諸国の紛争予防行動の促進とも連動し、しかも互いに補完を試みているとする分析は、国際関係論の陥穽を埋める一作業となった。</p> <p>本論文の内容の一部は、査読付論文2本として上梓された他、米国マサチューセッツ大学ボストン校と、英国ブラッドフォード大学で開催された各研究大会でも報告された。</p> <p>本論文は、理論の精緻化や、他事例への適用の不確実性という意味では、まだまだ改善の余地がある。しかし、紛争予防に着目し、非国家主体の主導性をとらえる研究は未だ手薄であり、その意味で本研究が挑んだ試みは優れた評価に値する。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士(学術)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			